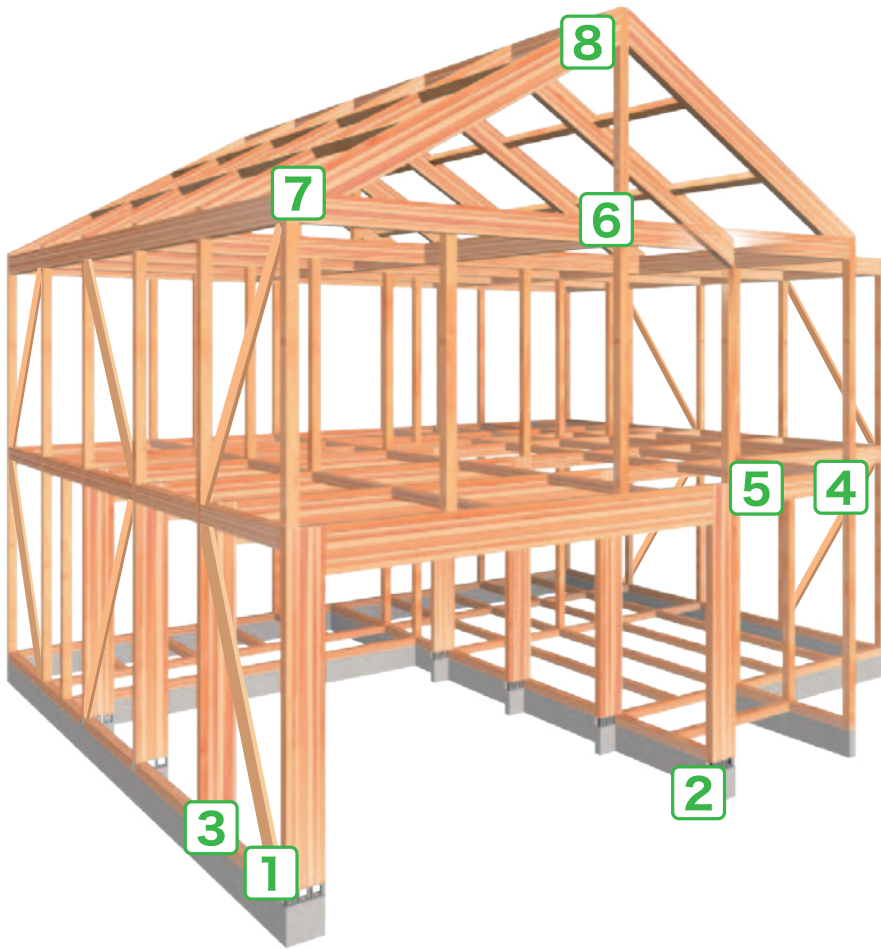


耐震金物で得られる安心と安全



■強い木、強い接合部で支える頑強構造。

1995年に発生した阪神・淡路大震災で多くの住宅が倒壊しました。その主な原因は接合部分の強度不足と木材の腐れや劣化だと言われています。長く住める家をつくるため、そしてそこに住むご家族の安全・安心のために、従来の木造在来工法において弱点とされていた梁や木材の接合部に耐震金物を使用することで強度を高めています。



① スリーク座付ナット



基礎に埋め込まれたアンカーボルトと土台の結合に使用します。座付ボルトが土台まで埋め込まれるため、ナットが緩みにくく基礎から浮き上がることを防止します。

② L型接合金物



床と柱を接合する仕口金物です。柱の柱頭、柱脚部分に設置。柱が横架材から抜けるのを防止します。

③ ホールドダウン金物



基礎と柱を緊結する際に仕様します。柱の中で、より引き抜き力が掛かる部分に設置。柱が横架材から抜けるのを防止します。

④ 筋交いプレート



筋交いと柱の接合に使用する金物です。地震や台風時に建物が動いた際に筋交いが柱から離れるのを防止します。

⑤ ホーマープレート



横架材同士の接合に使用します。横架材の継ぎ手部分にホーマープレートと横架材を接合し梁の脱落を防止します。

⑥ 羽子板ボルト



梁と梁、梁と柱の接合に使用。梁を片側からボルトで固定し、接合部の脱落を防ぎます。

⑦ タイトニック



木材の木痩せ、荷重による収縮や、振動による緩みを防止して、接合部の耐力低下を防ぎ、新築時の耐震力を長期に維持します。

⑧ タルキック



垂木と桁、母屋の緊結に使用する金物です。屋根を吹き上げようとする強風から家を守ります。